

「ケア付き青森ねぶた」 じょっぱり隊 4年間の思い出



幼い頃、祖母があんまマッサージに携わり、父方の親戚も整骨院を営んでいたことから、看護を通し、誰かのためになることをしたいと入学、そして学内の行事に「ケア付き青森ねぶた」じょっぱり隊というものがあることを知りました。もともと青森のつがる市(木造)出身であることから、地元のねぶたが好きでしたので、じょっぱり隊ボランティアに参加することにしました。障害をもった方々とのふれあいは初めてだったためとまどいしましたが、終わった後に参加したみなさんに感謝され、もっと頑張りたいと思いました。2年目は設営から携わり、3日目には撮影などの記録も行い、活動の素晴らしさを感じてきました。

そして最後の参加となった今年、参加人数も増え、また参加している皆様の笑顔に支えられ、自分自身のこれからは希望とやる気をいただきました。私はこの活動を通して、看護とは何か、人間の幸せとは何かを考えるきっかけをいただきました。後輩の皆さんにも、この行事に参加し、みんなが関わり楽しむことで、保健大学で学ぶことができるヒューマンケアについて探究してほしいと思います。



看護学科4年 木津 誉久(きづ たかひさ)さん

